

接頭辞 RE の機能 — remettre の場合 —

山本 香理

0. はじめに

フランス語では、対象を手渡すことを表すために、donner や passer の他に remettre を用いることがある。次の例はある手紙をめぐって教師と学生の間で交わされたやりとりである。教師が学生に、句読点が適切に打たれていない手紙に正しく句読点を打ち直す課題を提案し、その手紙を渡す方法を話し合っている。この例では remettre が「手渡す」という意味で用いられている：

- (1) Je me propose de vous **remettre** une lettre mal ponctuée de l'année 1914 et de vous demander de rétablir la ponctuation. (...) Je peux vous **remettre** cette lettre mardi 26 janvier ou vous l'envoyer par la poste si vous me donnez une adresse.

従来の研究の中で、接頭辞 RE⁽¹⁾の機能について様々な分類がなされている。例えば、*Le Robert Brio* は語源の違いから RE を2つに分け、以下のような意味分類を行っている：

I. 後退，以前の状態へ戻ること

- 1) 元の状態に戻すこと：rabattre, raccompagner, redescendre, etc.
- 2) 方向転換：rebondir, recourber, redresser, etc.
- 3) 中断されていた元の状態に戻すこと：rallumer, ranimer, rebourcher, etc.
- 4) 強意：raffiner, raffoler, ramollir, etc.

II. 繰り返し

- 1) 反復 : rattacher, réabonner, recompter, etc.
- 2) 変化・変更を伴う反復 : redéfinir, redistribuer, récrire, etc.
- 3) 進展を伴う動作の再開 : reconsidérer, réexaminer, repenser, etc.

一方, *mettre* については「対象をある場所に位置付ける」ことを表す動詞だとされる。そのことから, (2) のように「再び暖炉に薪をくべる」という場合に *remettre* を用いることは容易に理解できるだろう :

(2) Deux fois elle se releva pour *remettre* des bûches au foyer, (...). (G. Maupassant, *Une vie*)

ところが, 上で挙げた (1) の解釈についてはどうだろう。話題にされている手紙の所有者は教師であって学生ではない。そのことから, 手紙を元の場所に再び位置付けること, つまり手紙を「返す」といった解釈は成り立たない。では, なぜ *mettre* に RE を付加することで, 「手渡す」という意味が生じるのだろうか。この点を明らかにするために, 本稿では, まず先行研究の記述に基づき, RE の機能を概観する。次に, 使用実態の観察から⁽²⁾, *remettre* が「手渡す」という意味で用いられる場合の受け手の特徴を明らかにする。最後に, RE の機能と *remettre* の多義性がどう関わっているかを考察する。

1. 先行研究の記述

接頭辞 RE は多義的であり, 従来の研究の中でも RE の機能について様々な分類が提案されている。その中で, 統一的な記述を試みている研究として, Dolbec (1988) と Franckel (1989) が挙げられる。前者は RE の機能を解釈者の視点から論じ, 後者は発話者の視点から論じたもので RE の機能を明らかにする上で参考になる。以下では, 両者の論旨を概観する。

1.1. Dolbec (1988)

Dolbec (1988) は RE が用いられる場合は, 三つの事態 (x , x' , x'') が関わると指摘している。 x は発話の中で述べられる事態であり, x' は x の前提とされる事態で

ある。両者は全く同一のものでないため、両者の間には断絶状態である x'' がある。例えば、Pierre a revu Marie hier と言う場合には、まず Marie と会うこと x という事態が述べられる。次に、この事態の前提である Marie と会うこと x' が x より前の時点に位置付けられる。また、両者の間には Pierre が Marie に合わないこと x'' がある。このようにして発話が解釈されることから Dolbec は RE を回顧的な関係を示すオペレーター (opérateur de relation à caractère rétrospectif) と呼んでいる。

上の例のように、 x と x' が観念的に同一である場合は、RE は「繰り返し」を表すもの解釈されるが、前提となる事態の特性に応じて異なった解釈が生じる。Dolbec は従来の RE の解釈が以下のような経緯で生じると述べている：

(i) 立て直し (rétablissement dans un état antérieur)

(3) On songe à *reprivatiser* les banques.

銀行を再び民営化することを述べる発話である。前提は *privatier* の結果状態を表す *être privé* である。

(ii) 元の状態に戻る (retour à l'état antérieur)

(4) Tous les assistants lui faisaient signe de *revenir*.

話題にしている人物が再び元の場所に戻ることを述べる発話である。事行に関わる参加者の位置付け « z dans lieu l » が前提になる。

(iii) 先行する動作への対立 (opposition à l'action précédente)

(5) J'entre dans la maison et je *ressors* tout de suite.

内から外への移動を述べる発話である。空間関係において対になる *entrer* を前提としている。

(iv) 強意 (intensité)

(6) Votre visite va *resserrer* les liens d'amitié entre nos deux pays.

両国の関係がさらに強固になることを述べる発話である。この例では *serrer* の強度を問題にしており、*serrer* の強度がより弱いことが前提となっている。

このように、どの事態を前提にするかに応じて RE の解釈が異なってくる。そして、前提となる要素は動詞の表す事行そのものに限らず、動詞の意味的・語彙的パ

ラメータによって様々である。例えば、事行の実現によって生じる結果状態 (i) や事行の参与者の位置付け (ii) または所与の事行と対立関係にある事行 (iii), そして事行が内包する質や量 (iv) が前提となり得る。

1.2. Franckel (1989)

この論考によると、動詞に RE を付加する場合に発話者は二つの操作を行うとされている。第一の操作は、事行 P を定位し、P の量・質的限定を明確にする。次の第二の操作はこの第一の操作で得られた量・質的限定と一致させて P の定位を行う。このように、第二の操作は発話者の主観的なフィルターを通して行われるのである。

上の記述の具体例として、Franckel はいくつかの動詞を挙げている。例えば、je lis と je relis の差異については次のように述べている。まず、je lis という場合は、読む量・質についての限定は読む過程で行う。つまり、je lis を用いる場合は lire の定位と量・質的限定を同時に行う。一方、je relis を用いる場合の量・質的限定は、lire の定位とは切り離して行う。まず、第一の操作である lire の定位によって読む量・質を定める。その読んだ量・質は再読する際の読むべき量・質といった一種の目標となる。次に、第二の操作として、読書の量・質的限定と一致させて lire の定位を行う。relire に関しては、第一の操作と第二の操作において定位する P の量・質的限定が一致することから、結果的に RE は「反復」の価値を持つことになる。

ところで、第一の操作で定位する P は以前に生起した出来事であるとは限らない。また二つの操作の間で問題にする量・質的限定は異なることもある。そうした例として、rallonger が挙げられている。例えば、rallonger un pantalon は、既にあるズボンの長さから、主体が望ましいと考える長さにすることを示す。まず、発話現場にある P (avoir une longueur) を定位する。次に、P の量的限定から発話者にとって望ましい長さを想定する。そして、その量的限定と一致させた P (avoir la bonne longueur) を定位するのである。また、Les jours rallongent. に関しては、望ましい長さといった意図性を関与させることはできない。この発話では、慣習から見通される長さへと日が長くなっていることが述べられている。このような例に関しては、従来の分類の中で「変化・変更または進展を伴う反復」に相当するだろう。

1.3. まとめ

Dolbec (1988) と Franckel (1989) から、発話者は RE を動詞に付加する場合に次のような操作を行うと考えられる：

- 1) 以前の事態または言及しようとする時点において確認できる事態を参照する.
- 2) 1) で参照した事態から発話者の主観世界に P を定位し, P の量・質限定を明確にする. このとき, *relire* のケースのように, 量・質的限定は参照した段階のものと同一である場合もあれば, *rallonger* のように, 発話者が想定する量・質的限定に転化する場合もある.
- 3) 2) の操作で設定した量・質的限定と一致させて P を定位する.

以下では, RE を動詞に付加する際の操作が *remettre* の多義性とどう関わっているかを考察する.

2. remettre

remettre は <X remettre Y Prép Z> のような三つの項を伴って発話を構成することが多い. Z に場所の表現をとる場合, その場所は「元の場所」といった価値を持つと指摘されることが多い. 以下では, まず Z に場所の表現をとる用法を考察し Z の特性を明らかにする. 次に, Z に人の表現をとる例を考察し, なぜ *remettre* が「手渡す」という意味を表し得るかについて検討する.

2.1. Z の特性

Z に関しては, 多くの辞書の中で, 「元の場所」といった価値を持つと指摘されており, 実例でも, そうしたことを表す表現が Z に多く用いられている：

(7) a. A présent, il remettait *les meubles à leur place initiale*. (M. Higgins Clark, *Un cri dans la nuit*)

b. Il ferma le journal et *le remit à l'endroit précis où il l'avait trouvé*.

Y の本来あった場所という特性は、次の例のように、先行文脈から間接的に示されることもある：

(8) a. Elle sortit un portefeuille de la poche de son pantalon (...). Elle remit **le portefeuille dans sa poche**, (...). (H. Murakami, *La Ballade de l'impossible*)

b. Dumbledore inspira longuement en prenant dans sa poche une montre en or qu'il consulta(...) il remit **la montre dans sa poche**. (J. K. Rowling, 1998, *Harry Potter et la chambre des secrets*)

c. Elle essaya de prendre son verre, qui était posé sur la table, mais elle n'y arriva pas et il tomba sur le sol. Le vin se répandit sur le tapis. Je me penchai, ramassai le verre pour **le remettre sur la table**.

(H. Murakami, *La Ballade de l'impossible*)

このように、Y は本来 Z にあり、その後 Y が Z とは別の場所に位置付けられたことを発話者は認識している。そして再び Y を Z に位置付けることを述べようとすると *remettre* を用いる。

上の例は、Z を時間的側面から見たものであるが、「Y があるべき場所」という観念的側面から Z を見ることもある。その例として、以下の例が挙げられる：

(9) a. Remets **ta chemise dans ton pantalon**, espèce de débraillé !

(J. -K. Rowling, 1998, *Harry Potter et la chambre des secrets*)

b. Elle tourne le rétroviseur pour se coiffer. Jean remet **le rétroviseur en place**.

(L.-F.Barbosa, 1993, *Les Gens normaux n'ont rien d'exceptionnel*)

(9a) で発話者は、ズボンの中をシャツが以前あった場所といった時間的側面を問題にしているのではない、むしろ観念的側面を問題にしている。身なりを整えるためには、ズボンの中はシャツのあるべき場所である。そして、発話者は聞き手にあるべき場所にシャツを位置付けることを促しているのである。さらに、(9b) は Z の両側面が関わる例である。髪を直すために位置が変えられたバックミラーを再び元の位置に戻すといった時間的側面とバックミラーを有効的に使うためにあるべき場所に位置付けるといった観念的側面を問題にしている。

2.2. Z = 人を表す表現

Z が人を表す表現である場合に、その人が Y の元の場所つまり所有者であることがある。その場合、remettre は「返す」と解釈される：

(10) Sans dire un mot, le magicien remit **le médaillon à son propriétaire**.

(A. Robillard, 2009, *Capitaine Wilder*)

しかし、冒頭で述べたように、所有者でなくても Z になり得る。その場合の人物は Y のあるべき場所として認識されている。例えば、社会制度・慣行から、ある人物が Y のあるべき場所として見なされる以下の例が挙げられる：

(11) a. Il remet **une médaille à l'homme qu'il considère comme le meilleur**.

b. À supposer que ce soit bien la gourmètre de votre grand-oncle, je serai heureux de **vous la** remettre moi-même. (J.-C. Bianco, 2006, *Le Mystère englouti Saint-Exupéry*)

まず³ (11a) のメダルは優秀者の手元にあるべきである。(11b) は Saint-Exupéry のものと思われるブレスレットを引き上げた漁師が、ブレスレットの返還を求めてきた遺族に対し述べたものである。やはりこの例でも、遺族はブレスレットのあるべき場所であるため remettre が用いられている。

次に示す例の Z についても同様のことが言えるが、適切に職務や目的が果たされるために Z で話題にされている人物が Y のあるべき場所と認識される例である：

(12) a. J'ai l'intention de remettre **ma démission à la Présidente**.

b. Quand arriva son tour, il s'installa à l'arrière du véhicule et remit **un morceau de papier au chauffeur**. (M. Levy, 2009, *Le premier jour*)

c. À la porte de l'hôtel, (...) elle remit **le sac au portier** avec une liasse de francs suisses.

(A. Rice, 1995, *L'heure des sorcières*)

d. A : D'autres informations à me communiquer ?

B : Tout se trouve dans le dossier que vous m'avez demandé.

L'homme ouvrit sa sacoche et remit **une large enveloppe en kraft à son interlocuteur**.

(M. Levy, 2009, *Le premier jour*)

(12a) の辞職届は社長の手元にあるべきものである。(12b, c) についても同様である。目的地へ行くためには、行き先を書いた紙は運転手の手元にあるべきであり、ホテルで荷物を運んでもらうためには、ボーターの手元に荷物がなければならない。(12d) は、情報を待っている相手に情報の書かれた書類の封筒を渡す場面である。そこで、情報を待っている人物が封筒のあるべき場所と見なされるようになる。

このように、何らかの目標を達成するために、Z が Y のあるべき場所であると見なされる場合にも *remettre* が用いられる。そして、冒頭で挙げた (1) についても同じことが言える。手紙に関する課題を学生にさせるためには、手紙は学生の手元になければならない。

(13<1) Je me propose de **vous** remettre **une lettre** mal ponctuée de l'année 1914 et de vous demander de rétablir la ponctuation. (...) Je peux **vous** remettre **cette lettre** mardi 26 janvier ou vous l'envoyer par la poste si vous me donnez une adresse.

以上のように、Z が人を表す表現をとる場合でも、時間と観念の二つの側面を問題にすることができる。つまり、Z を Y の所有者と見るか、あるいは社会制度・慣行によって、そして何らかの目的を達成するために Y を持っているべき人と見るかである。Z を時間的観点から問題にすれば、「Y を Z に返す」といった解釈がなされ、観念的観点を問題にすると、「Y を Z に渡す」といった解釈が与えられる。

おわりに

本稿では、接頭辞 RE のケーススタディとして、*remettre* が「手渡す」という意味を表す要因を探った。〈X *remettre* Y Prép Z〉という構文をとる例を中心に考察し、Z は時間と観念の二つの側面から捉えることができることを見た。Z である場所を時間的側面から捉えれば「元の場所に Y を戻す」という意味が生じ、観念的

側面から問題にしようとする「あるべき場所に Y を位置付ける」という解釈が与えられる。そして、Z である人を時間的側面から捉えれば「所有者に Y を返す」という意味が生まれ、Z を観念的側面から見れば「しかるべき相手に Y を渡す」という意味が生じる。このように、Z の特性と問題にしようとする側面の組み合わせに応じて異なる意味が生じるのである⁽³⁾。

最後に、第 1 章で見た RE を用いる際に発話者が行う操作を *remettre* に適用すると、次のように表すことができるだろう：

- 1) <Y être mis dans lieu l> を発話時点、または言及しようとする時点において参照する。
- 2) Y が Z に位置付けられているという P <Y - être mis - Z> を発話者の主観世界に定位し、量・質的限定を明確にする。このとき、発話者は Z を Y の元の場所または Y のあるべき場所として見ている。
- 3) 2) で定めた <Y - être mis - Z> という量・質的限定と一致させて、Z とは別の場所にある Y を Z に位置付ける。

注

- (1) *re*, *r*, *ré* を総括し、以下 RE と記す。
- (2) 映画のシナリオ、演劇の脚本、小説、新聞記事を使用した。
- (3) Z に時間表現が来る場合もある。次の例のように、予定を最初に定めた日時からしかるべき日時に位置付けることを述べるものである：

En raison de l'urgence, Merthin et Elfric avaient remis *leur dispute à plus tard*. (K.Follett, 2010, *Un Monde sans fin*)

主要参考文献

- J. Dolbec (1988), *La préfixation en français, essais de théorie psychosystématique et application au préfixe re-*, thèse de doctorat nouveau régime, Lille III : A.N.R.T.
- J.-J. Franckel (1989), *Etudes de quelques marqueurs aspectuels du français*, Droz.
- L. Mascherin (2007), *Analyse morphosémantique de l'aspectuo-temporalité en français*. - Le cas du préfixe RE -, thèse de doctorat, Université de Nancy 2, ATILF.

小熊和郎 (1991), 「接頭辞 re-と発話操作」 『西南学院大学フランス語フランス文学論集』 27, 西南学院大学, 111-138.

Le Grand Robert de la langue française

Le Robert Brio

(文学研究科研究員)